

令和4年度 部局経営目標（達成状況）

年度	令和4年度	作成日	令和5年3月31日
部局名	北房振興局	部局長名	大塚清文

(1) 部局の役割・使命（ミッション）・経営方針

1.災害に強いまちづくり【No.11:住み続けられるまちづくりを】
 市民の安全安心な暮らしを守るため関係機関・団体と連携を密にし、防災意識の向上と地域連携を図り、地域防災力の強化を図ります。

2.生涯を通じた健康づくりの推進【No.3:すべての人に健康と福祉を】
 持続可能な地域社会を実現するための基本となる健康づくりに、各団体等との連携を図りながら取り組みます。

3.市民と協働・連携したまちづくり【No.11:住み続けられるまちづくりを】
 市民との協働、連携によるまちづくりを推進し、地域課題の解決や地域活性化に向けて自ら取り組む地域づくりを進め、持続可能な地域社会の実現を目指します。

4.地域の強みを活かした地域振興【No.11:住み続けられるまちづくりを】【No.14:海の豊かさを守ろう】【No.15:陸の豊かさを守ろう】
 豊かな地域資源（風習文化・伝統工芸・自然景観・食文化・農林畜産物等）が次世代に引き継がれるようにブラッシュアップし、観光事業に積極的に活用していくことで地域の魅力を全国に発信し、さらなる交流・定住人口の増加を図ります。

5.移住・定住の促進【No.11:住み続けられるまちづくりを】
 移住者や関係人口獲得など、持続可能なまちづくりを目指す地域団体等の活動を支援します。

6.地域の特性を生かした産業振興【No.11:住み続けられるまちづくりを】
 歴史、文化、風土、景観など地域の強みを活かした市民主体の振興事業や特産品を活用した商品開発などの地域内経済循環を推進し、豊かで自立した農山村の実現及び来訪者・関係人口の増加を目指します。

7.生み育てやすい環境づくり【No.11:住み続けられるまちづくりを】
 安心して子育てができる環境を確保するためライフスタイルにあわせた支援をおこないます。

8.行政財産の有効活用【No.11:住み続けられるまちづくりを】
 市民の共有財産である「行政財産・公共施設」について、一層の有効活用のため、地元の意向を把握しながら、管理運営形態や複合的な利用手法を検討します。また、地元協議やHP等での情報発信も積極的に実施します。

(2) 事業成果目標	指標名及び目標値			
1-① 自主防災組織の強化 市民の生命を守るため、防災意識の向上につながる取り組みを進めていきます。 ・自主防災組織や地域の防災士と連携し、新たな避難場所や避難所を掲載した「真庭市防災マップ」を活用する避難訓練や新型コロナウイルスに対応した避難所設営・運営訓練を実施します。 ・地域防災力の向上のため、北房地域自主防災組織代表者会議を開催し、地域課題の共有と解決にむけ協議し、実践していきます。 ・真庭市自主防災組織補助金制度の周知を積極的に行い、地域の防災活動に必要な防災資機材等の整備や防災士資格取得の支援により、自主防災組織の育成強化及び防災活動の推進を図ります。	指標：①代表者会議実施回数 ②避難訓練実施回数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	① 2回 ② 1回	① 1回 ② 1回	代表者会議を1回開催したが、以前の避難訓練を再度検証する出前講座を開催することにとどまった。	組織により取組状況に差があるケースもあるため、新型コロナの影響も緩和される見込みであり、さらなる自主防災組織の取組を行っていく必要がある。

2-①健康づくりのための実践活動支援 糖尿病予防のための健康づくりに取り組みます。 ・北房地域も糖尿病予備軍が多いため健康課題の解決に取り組みます。 ・糖尿病のリスクを下げる食習慣の対策として、「ベジ食べるファースト～いただきます。一皿目は野菜から～」プロジェクトを昨年度に引き続きほくぼう健康づくり実行委員会が中心となり、地域を巻き込んで実施します。 ・令和4年度は市の健康づくり実行委員会から、運動に着目した活動を推進するよう指示があり、北房地域のウォーキングマップの見直しとそのウォーキングコースを使ったウォーキングイベントを開催します。	指標：イベント参加者数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	20人	30人	コスモスまつりのコスモスウォーキングとコラボして、ほくぼう健康づくり実行委員会で健康運動指導士を派遣し、ウォーキング前に「効果的な歩き方講習」を実施し、ウォーキングコースを歩いてもらった。既存の事業と連携しての開催だったので、目標よりも多くの参加があった。	親子や家族で楽しめる内容もより多くの市民がウォーキングに親しめるのではないかと。
2-②ふれあい・健康づくりの「集いの場」（ささえあいデイサービス、ふれあいきいきサロン運動型等）の立ち上げ支援（北房地域における地域包括ケアシステムの構築促進） ・生活支援コーディネーターや真庭市地域包括支援センター、社会福祉協議会等と連携し、地域住民が自主的な活動として集いの場を開始できるように支援します。 ・集いの場に関わる地域住民一人一人が主役となり、生きがいや役割を持てるように支援します。	指標：集いの場新規開始数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	2カ所	0カ所	生活支援コーディネーターや包括支援センターが連携し、地域へ働きかけを続けており、集いの場の開所に前向きな団体が3団体ある。また、1月から半年かけて「おやし塾」を開催し、集いの場の担い手となるよう育成中。前向きに動いている。	開所に前向きな団体への支援を継続。「おやし塾」の参加者が定期的な運動の効果を実感し、地域に持ち帰ることできるよう支援する。
3-①協働のまちづくりの推進 街並みに大勢の人が交流する活性化イベントを実施します。 ・「北房まちの駅」を地域と行政の連携の拠点として、商店街のにぎわいづくりや大学生が活躍するフィールドとして活用し、関係人口を創出していきます。 ・歴史遺産を保存・活用する西の明日香村づくりに向けて、荒木山西塚古墳の市民主体による発掘調査を実施するにあたり、発掘調査や発掘成果の活用を担う住民組織の活動を支援し、地域づくりの新たな担い手の育成を図ります。 ・ふるさとセンターなどを活用し、北房の歴史文化遺産を活用した体験講座を実施します。	指標：①まちの駅利用者数 ②体験講座開催数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	①560人 ②10回	①530人 ②8回	皆部の街並みを活用したイベント等はできていないが、北房ぶり市を地元商店会が3年ぶりに開催した。コロナの影響が落ち着きつつあり、北房まちの駅の利用も徐々に戻ってきている。北房ふるさとセンターを活用した講座は8回にとどまっているが、竪穴式住居づくりなど内容の濃い講座ができた。	荒木山西塚古墳の発掘調査を終える来年度は、文化遺産の活用に向けて、同志社大学や地域団体と連携し、ふるさとセンターの更なる活用も含め、発掘調査後の取組を計画して行くことが求められる。

4-①地域振興事業（阿口） 里山の資源を活用した地域振興事業に取り組みます。 ・民間活用による北房紅葉公園のキャンプ場と連携し、四季彩湖一帯を魅力あるアウトドアフィールドとして磨きをかけ、交流・関係人口の増加を図ります。 ・都市・里海の人が農村(阿口)の自然を楽しむプログラムを商品化するため、四季彩湖を活用した体験イベントを実施します。	指標：①キャンプ場利用者数 ②プログラム商品化数			
	目標値 ①2,500人 ②2件	実績値 ①2,411人 ②0件	評価 北房紅葉公園のアウトドア利用は定着し、昨年並みの利用があった。里山の資源を使ったプログラムの商品化はできていないが、阿口でのウォーキングイベントを開催した。	次年度への課題 阿口地域の住民を巻き込み、地域の活力アップにつながる取組をしていく必要がある。令和4年度に実施したなりわい塾の取組をこれらにつながるプログラムなども要検討。
5-①地域間交流の推進 「日本一のホタルの里づくり」を目指す取り組みを進めます。 ・北房ホタル保存会と連携しホタル保護活動・生態研究を行います。(ほくぼウホタル学、ヘイケボタルの再生活動など) ・北房観光協会と連携した体験プログラムを実施します。(渚の交番プロジェクト) ・ホタルサミットへ参加	指標：ホタル保護活動回数			
	目標値 10回	実績値 9回	評価 北房ホタル保存会を中心に保護活動に取り組んでいる。特に今年度は、ほくぼウホタル学での観察やゲンジボタル発生調査など新たな取組を実施し、ホタルの里としての情報発信にもつながっている。	次年度への課題 現在の取組の質を維持していくために、関わる人を増やし若い人や子どもたちにつなげていく必要がある。また、来年度に具体化する北房ほたる公園の整備もきっかけにして、ホタルの里としてより充実した環境整備を進めていきたい。
5-②なりわい塾の開催 北房地域で「なりわい塾」の実践講座を開催します。 ・令和3年度に基礎講座を受講した塾生が、阿口エリアをフィールドに、北房地域での暮らしを実践しながら、持続可能なライフスタイルを模索していきます。 ・なりわい塾を通じて、真庭市への移住や、関係を継続する人材を確保します。	指標：実践講座開催数			
	目標値 6回	実績値 8回	評価 阿口の杉地区の方の協力をいただき、計画どおりに実施できた。地域に残す具体的な成果(阿口の絵本)も生み、塾生の達成感・充実感も高かったと思われる。	次年度への課題 来年度は新たな塾生を募集し、北房で2期目の塾となる。まだ地域に浸透している取組ではないので、地元への理解、参加の呼びかけをしていきたい。
6-①地域の特性を生かした観光振興 里山の地域資源を生かした交流事業を行います。 ・北房観光協会が日本財団の「渚の交番プロジェクト」助成を受け、里山里海交流館「しんびお」を整備したことを契機として、北房のホタルや自然環境など里山の資源を活用した体験や教育のプログラムを通じて都市住民や里海の人々と交流し、里山から森里川海の連環を発信するモデル地域となることを目指します。 ・交流のパートナーとなる備前市(日生)と人や物産がつながり、双方で活用し合う仕組みをつくります。	指標：拠点施設での交流事業の回数			
	目標値 3回	実績値 2回	評価 北房観光協会が、里海(備前市日生)との交流事業と体験イベントを実施した。また、SDGsツアーのコースに組み込まれ、映像を用いた体験学習の場として活用された。	次年度への課題 里山と里海のつながりを発信する場としてはまだ認知度が低い。行政としても、しんびおを活用した事業を検討していく必要がある。

6-②農泊事業の推進 農泊を中心とした観光宿泊プランを企画していきます。 ・真庭観光局や北房観光協会が企画する、外国人も対象とした滞在型観光ツアーについて、地域で受け入れる環境を整備していきます。 ・都市の人が農村（阿口）の人と関わる農村宿泊体験を実施します。 ・季節行事と郷土料理体験、囲炉裏ごはんなどを体験できる宿泊プランを企画します。	指標:農村宿泊体験回数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	2回	0回	実施できていない。	農泊にこだわらず、北房観光協会や北房なかつい陣屋などに、季節行事やイベントに合わせた宿泊・滞在プランなどを提案していきたい。
6-③北房地域振興計画の推進 北房地域振興計画をもとに、地域振興に取り組みます。 ・地域振興計画を地域に浸透させるため、積極的に地域に発信していきます。 ・北房地域振興計画の実現に向けた、推進組織（北房未来づくりネットワーク）を立ち上げ、住民主体により行う推進会議の運営支援をしています。	指標:推進会議数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	10回	10回	北房未来づくりネットワークを定期的で開催している。空き家についてのアンケートや北房コスモスまつりでの取組PRなど、少しずつではあるが、取組の具体化に向けて進んでいるところである。	未来づくりネットワークの活動や振興計画がまだ地域にあまり知られていない状況である。地域住民の興味関心を引くような取組ができるよう関係者と意見交換を行っていきたい。
7-①北房つどいの広場を活用した子育て支援事業 地域住民同士の助け合いで令和3年度からスタートした、小児の一時預かり「にこにこ」の市民への周知をし、利用につなげていきます。また、ボランティアの研修会を兼ねた定例会を開催し、チームワークを維持します。	指標:利用登録者数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	5組	4組	一時預かりの周知が不十分であった。	チラシの刷新。 SNSを活用した周知をする。
8-①管内公共施設の有効活用及び効率的運営の推進 学校等跡地の有効活用の推進に取り組みます。 ・廃校、廃園跡地の有効活用に向けた公募情報等を広くPRします。 ・活用提案があれば、積極的に実現に向け支援や調整を行います。 ・廃校等の活用策（方向性）を検討し、有効活用へ繋げていきます。	指標:有効活用策の実現			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	2件	2件	旧皆部幼稚園の活用提案があり、契約に向けて進めている。旧水田小学校の現利用者よりR5.6月末までの延長要望があった。	旧水田小学校のR5.7月以降の利活用および解体後の旧皆部小学校跡地の利活用について、提案を募り積極的な活用方法を模索していく必要がある。